

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870800145
法人名	社会福祉法人 愛美会
事業所名	グループホーム虹の里
所在地	四国中央市上分町乙8番地73
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年7月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの個性やペースを大切に、理念である「ゆっくり」「楽しく」「いっしょに」を全職員で心がけ支援をしている。同敷地内には、特養・ケアハウス等が隣接しており、交流行事も多く普段から同世代の人たちの交流が盛んである。また、法人が開催している行事祭では多くの来場者があり、地域との連携と親睦を実感している。山間部に立地している事業所ではあるが、周辺は緑豊かな環境にあり四季の移り変わりを感じ自然に触れることができる。母体が、医療機関であり24時間緊急時の対応が可能のため家族や利用者の安心にも繋がっている。共用型デイサービスでは、事業所の活気と人間関係の深まりが出てきたように思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外を走る幹線道路から山に向かって少し入ると大きな福祉施設群が見えてくる。その中にあるケアハウスに事業所は併設されている。施設建物は高台に建っているのでロビーの窓からは市内が一望でき、海に上がる花火を事業所から楽しめる。事業所が開設する時に植えた桜の木々は三階の建物からも花が見える程大きくなっている。事業所内部には、ワンユニットの特徴であるのんびりとした時間が流れている。一般の事業所は業務施設であるため作業音が絶えず背景に流れているものだが、此処にはそれが感じられない。利用者や職員が持っている生活音だけである。だから居心地が良い時間をこの事業所では過ごせるのだと思う。施設内の廊下が路地となり、それぞれの事業所の利用者が隣近所付き合いをしている。法人の福祉施設群が福祉村であり、安全で安心できる地域になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム虹の里

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

森田 春美

評価完了日

平成28年 7月 3日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「ゆっくり」「たのしく」「いっしょに」を運営理念とし、玄関を入れて直ぐの所に掲示している。理念を踏まえ、一年の目標についても作成し日々の生活に通じているか常に意識しながら取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 全体の方針を示している法人の理念を基礎とし、事業所がどのようなケアを目指すかを独自の理念で表明している。特筆すべき点は目標としていることに「やる気を育てる自立支援」がある。やる気とは「生きることに対する」やる気であり、自身の力で行うことが自立支援である。高齢期の生き生きとした生活を支援したいと言う思いが職員の隅々まで行きわたっており、評価できる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 法人が開催している行事祭では、毎年多くの来場者があり、地域の方々の協力を頂きながら親睦と連携を深めている。また、外出行事を計画し地域の方々と触れ合う機会を設けている。共用型デイサービス事業にて、人間関係の幅も広がってきたと感じている。</p> <p>(外部評価) 周りに民家がない立地条件を克服しようと法人主宰の季節行事には多くの市民が集まっている。開催回数も重ね地域行事として定着しており、法人が中心となって地域を盛り上げている様子が伺える。また、施設群内の利用者をつなげる活動にも力を入れている。毎週実施しているケアハウスの多目的室でのシアター会には、多くの入所者が集まっている。映画を観賞するための集まりではあるが、その前後の井戸端会議が人のつきあいを堅固にしている。</p>	法人は地域地域に沢山の関係機関を持っており、住民との繋がりも持っている。しかし事業所があるケアハウスは地域から離れた場所にあるので、近所付き合いが難しい状況にあるため、シアター会は入居者の催し物になっている。地域住民との付き合いを深めるため、シアター会に在宅の高齢者を招待してはどうだろうか。この場所に地域住民がやってくれば昔の近所付き合いが復活して、利用者の生活が活性化すると思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) グループ内では、「認知症を考える」プロジェクトチームを発足、グループ内職員の認知症理解につながる研修を計画・実施、また、キャラバンメイトとして認知症サポーター養成の協力をしたりしながら地域貢献に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 日常の様子をDVDにまとめ上映する事により、サービスの様子や日常を参加者にも分かりやすく知っていただく機会となっている。サービスの実際や評価への取り組み状況を報告、家族会を運営推進会議の一部として実施するなどし、様々な意見・ご理解を頂いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の参加者に地域の実情を見ることが出来る。少人数の固定した人が会議に参加している。また、議題からは事業所の活動などの理解を求める事柄が多く、議論が活性化しているとまでは言い難いが、運営推進会議の開催に、真面目に取り組んでいる管理者の苦勞が垣間見れる。</p>	会議の年間計画を立てることを進めたい。議題も事業所の行事にリンクさせることも必要と思われる。そうすることで会議にリアリティが生まれ、会話が双方向になり活性化する。また、利用者のケアに直結した議題等も、相談として織り込むと専門家でない委員からも意見も出やすいのではないだろうか。救命救急の議題もあるようだが、消防署を交えての避難訓練のうちに時間を合わせて行くと、専門家からのアドバイスを運営推進会議で共有化しやすいと思われる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 地域包括支援センターや市の職員の方には、運営推進会議に参加していただき、逆に市が主催する研修会等には参加している。また、キャラバン・メイトにおいても、依頼があれば出向いていき、認知症の理解につながる講演等に協力している。</p> <p>(外部評価) 法人が地域にとっての高齢者福祉の核になっているため、事業所だけでなく、法人の関連施設全体で市関係者とは連携を取っている。運営は法人が28年、事業所は18年と歴史の積み重ねがあり、行政との協力関係は堅固である。管理者は市担当者とは事業所の利用者の諸課題の相談にとどまらず、地域の高齢者問題に共に取り組んでいる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 全職員が「身体拘束はしない」という方針で取り組んでいる。職員の何気ない言動が、目に見えない拘束へと繋がっていないか、また、どのようなことが身体拘束に当たるのか話合う機会をつくっている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束ゼロは法人の課題でもあり、法人全体で取り組んでいる。具体的には、玄関前には法人の事務所があり、見守りが徹底しているため夜間の防犯以外の施錠は行っていない。道路までに他の施設があり、飛び出し等の問題もない。行動を制限する施錠に関して、法人が施設を建設する上で細やかな配慮をしていることが分かる。「利用者に、ちょっと待っていてと言うのも拘束になるので、デリケートですね」と話す職員から、身体拘束をしないケアに取り組んでいる様子が分かる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員で日々のケアについて振り返ったり、不適切なケアが見過ごされることのないよう注意を払っている。また職員の疲労やストレスが利用者のケアに影響していないか点検している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ、制度を活用する事はないが、全職員が権利擁護や成年後見制度を理解できるよう研修等に参加できる機会を設けていく。関係資料はいつでも閲覧できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には契約書や重要事項に添って説明をおこない、事業所のサービス内容や方針についての理解をいただいている。また、解約や改定の際にもその理由を十分に説明し、不安や疑問等を聞き取り納得したうえでの手続きを進めるよう配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会では運営推進委員の方々にも参加をいただき、様々な意見や要望を引き出す機会をつくっている。出された意見等については前向きに活かすよう努力している。	
			(外部評価) 利用者の事業所での生活が長くなると、家族等から意見を求めても「お任せしていますから」と言う返事が多くなる。管理者は家族が利用者の情報が少なくなっているのも、その要因の一つになっていると考えている。そこで家族が面会に来るたびに利用者の生活を丁寧に説明している。ワンユニットであるため、管理者と家族の距離が短いことも功を奏し、管理者や職員に話しかける家族等が多い事業所であり、意見が言いやすい状況である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会では、施設長も参加し決定事項等の報告があり、職員の意見も取り入れている。また、施設長よりの個人面談もあり、月1回のケース会においては、何でも話会える場とし、さまざまな意見を引き出すようしている。 (外部評価) 職員と管理者は絶えず同じ空間で業務をしているため、コミュニケーションはとてもスムーズであり、職員は管理者に日頃感じたことや業務での要望等を気軽に伝えることができている。また、管理者は職員の仕事全般を確認することができるため、仕事の見落としが少なく何か気になることがあれば、管理者はその都度職員に確認することができるのも事業所の利点である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人では、年2回の人事考課を実施し賞与に反映、意識向上に繋がるよう組織的に取り組んでいる。必要な資格取得を目指す者には試験対策講座を開いてバックアップしたり、夜勤手当の見直しもおこない職場環境・条件の整備に努められていると判断する。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 人事考課にて個々の課題や力量を把握している。また、目標を設定し自己研鑽に役立てている。その他、計画的に内外の研修に参加できるよう取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 3ヶ月に1回行われる四国中央市GH交流会では、持ち回り主催で勉強会や意見交換をおこなっている。また、東予地区研修会には、全職員が参加できるよう配慮し他事業所との交流を深められるようにしている。法人3事業所の交流会では、ケアに直結した問題等について討議している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談では、実際にホームも見学していただき事業所の雰囲気を感じていただいている。ご本人様が今不安に思っている事やこう在りたいと思う気持ちを大切にコミュニケーション図れるよう努力している。また、共用型デイサービスのご利用者においては、今の関係性がスムーズな入居と繋がると考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族の苦労や不安に対して傾聴するよう心掛けている。また、家族間でも思いの違いがあることを理解し、それぞれの立場を受け止めながらより良い関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の要望等を聞き、どのような支援が必要なのか、また、背景にある問題を見極めながら様々な支援の選択肢を一緒に考えるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者と共に過ごすにあたり、一方通行な介護になるのではなく、喜怒哀楽を通して学び支え合える場面を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームや法人でおこなう各種行事等に一緒に参加・ご協力いただく事で、ご本人とご家族が共に過ごす事を忘れないように心掛けている。遠方で暮らすご家族には、電話やお便りにて、ご本人が生きる意欲を見いだせられるよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族の協力のもと、一緒に食事に出かけたり、姉妹宅を訪問、自宅に帰って近隣の人やご親戚と交流を持つ、行きつけの美容室を利用するなど、これまでの関係が途切れないよう支援している。 (外部評価) 家族等の協力を得ながら利用者の馴染みの場所に出かける支援を続けているが、事業所での生活が長くなればなる程、利用者から「ここが一番」と言う声が聞こえてくる。自宅に外泊した利用者が「戻りたい」と事業所に帰って来たこともあり、ここが馴染みの場となっているんだとの思いを深めている。馴染みの場をそのまま自宅と思わず、利用者の思いを見極めながら、関係継続の支援を進めることが重要と管理者は考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を十分に把握し、共に過ごせる時間を大切にしている。感情は日々変化するものと捉え、混乱や不安で孤立感を感じさせないよう配慮している。共用デイにより、人間関係に広がりも見えてきたように感じている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設等への移動で退居された方においては、十分な情報提供をおこない面会もさせて頂いている。入所先からの相談依頼がある時も再度情報提供をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 月1回のケース会において、お一人おひとりの思いについて検討している。日々の生活や会話を大切にし、会話の中にご本人の意向を見つけ出すよう心掛けている。また、思いを伝えることが困難なご利用者においても、普段の生活をヒントにしたり、表情から汲み取り気持ちに添った支援をしている。 (外部評価) 職員は、利用者から意見を聞きたくても認知症の進行から応えてくれないという苦い経験から、言語でのコミュニケーションが可能な内できるだけ多くの思いや意向を聞き出せる接し方に心掛けている。「こうして思いを集めておくと、職員側で判断しなくてはならなくなっても、自信を持ってケアが出来る」と管理者も話す。運営が18年目の事業所だけあって、利用者の思いを理解する取組みにはキャリアが感じられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時には、これまでの生活歴をお聞きし、入居後も日常の会話の中から得られた情報を職員間で共有し把握できるようにしている。また、利用していたサービス事業所やケアマネからも情報を得て留意点も把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 認知症状や身体状況も違う方々が共同で生活しているため、可能な限り個々の過ごし方を尊重している。また、ご利用者の、出来ることを見極め有する力の把握にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) まずは、ご利用者・ご家族の意向を確認し、初期の介護計画を作成しており、作成後は、担当職員を決めて毎月1回評価をおこない、職員で話し合いを持って検討している。利用者の状態に変化がある場合はその都度、通常は6ヶ月ごとに介護計画の見直しをしており、計画書については、家族が来訪した時に説明し同意を得ている。</p> <p>(外部評価) 介護計画にはその記録用紙と共に、試行錯誤した細やかな工夫がある。また、介護計画を「ポイントを二つ位に絞っています。そうしないと職員は覚えることが多くなり、業務に余裕がなくなります」と管理者は気遣っている。職員に余裕がないと、そのしわ寄せが利用者に出ることを心配している。モニタリングも焦点が絞りこめて、精度が高い見守りができている。</p>	ワンユニットであるので、利用者の状態は把握しやすい。そのためか介護計画やモニタリングの記録は言葉の簡素化が進んでいる。しかし外部の人間が読むと理解が異なってしまう場合もある。事実、調査員が計画書から利用者の状態を判断すると、実情とは大きく異なっていた。職員が共通認識をしている場合は問題ないが、異動や交代があった場合に判断違いが出ないとも限らない。大きな法人であるから、他部署のケアマネに見てもらったりなど、記録から利用者の状態を判断できるかどうかのチェックを受けることを勧めたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ご利用者の日々の様子は、処遇記録に記載して情報を共有し、更に観察項目も常に意識できるように、個々のファイルに貼付している。また伝達事項は「申し送りノート」を活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族が病院受診が出来ない時は付き添ったり、御家族だけでの外出が困難な場合は一緒に付き添っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 併設施設と共にではあるが、定期的に地域ボランティアの受け入れをおこない踊りや歌を楽しんでいる。また、行きつけの美容院に出かけ、これまでの生活が途絶えないよう支援、消防署の出前講座を受講し地域の方々の力をお借りしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ほとんどのご利用者が協力病院をかかりつけ医としているが、ご利用者が希望される病院には継続して受診できるよう支援している。協力病院の受診時は職員が付き添い、専門医等の受診時はご家族にお願いしているが、出来るだけ同行し情報提供できるように努めている。 (外部評価) ほとんどの利用者が、運営法人の病院をかかりつけ医にしている。母体病院は地域医療に古くから携わっており、元々かかりつけ医だった利用者が多く、医療面の連携には安心感が高い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携にて、同法人の訪問看護ステーションから看護師が訪問している。気づいたことがあれば、看護師に報告し指示を仰ぎ、適切な医療機関へと繋げている。また、介護に関する助言等も受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際には医療機関に情報提供をおこない、ご本人を見舞い状態の確認とストレスの軽減に努めている。また、医師をはじめとする各種専門職との情報交換をおこなうと共に定期的に院内の地域連携課とも連絡を取り合い、早期の退院へと繋げられるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居の際には、事業所の方針と指針について説明をおこない、「終末期意向確認書」でご家族の意向を確認している。ご利用者の病状やADLの低下にともないご家族の心境も複雑になることを理解し、その都度の話し合いを持つ機会を設けている。また、主治医や関係機関との連携を図り、訪問看護師より支援の技法を学んでいる。 (外部評価) 事業所の浴室が建物の構造上、階段を二段上がるようになっており、当初はここで入浴できることが事業所の入居条件になっており、難しい場合は隣接している特養に移ってもらっていた。近年、家族等の協力が得られることが条件ではあるが、看取りも行う必要性を感じ実践している。職員からは「夜勤時等は不安が大きいです、看取りを実践して高齢者介護の遣り甲斐を感じています」と心強い言葉があった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時の対応においては、マニュアルを作成し全職員が周知している。市の出前講座で「普通救命講習」を受講し、実践力を身に付けている。また、毎月の職員会では併設施設の職員と様々な緊急時を想定しシュミレーションをおこない緊急時に備えられるよう訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回へ移施設と合同で避難訓練をおこない、安全且つ迅速に避難できる連携体制を整えている。に加え、グループホームでも独自の訓練を年2回実施し、全職員が順番に参加できるよう取り組んでいる。また、災害種別の訓練を想定し、訓練後は改善点について検討し防災意識を高めている。 (外部評価) 災害時の避難訓練は、事業所の年間スケジュールに組み込まれ、消防署の指導を受けながら定期的に行っている。ケアハウスや特養等と合同であるため、大掛かりであり本格的でもある。避難計画書も備え、利用者の命を守るという思いで訓練を実践している。耐火の建物や広い避難広場等、ハード面で備えなければならないことは全てに対応している事業所である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) お一人おひとりの個性と人格を尊重し、思いやりのある対応を心掛けている。たとえ失敗や出来ない事があっても「出来る事に目を向け」ご利用者の目線や立場に立って考えることを忘れないようにしている。特にプライバシーに立ち入る時は羞恥心を配慮してマンツーマンの対応を行うよう周知している。 (外部評価) 事業所が取り組んでいる「やる気を育てる自立支援」は、人格の尊重や人の誇りを大切にする理念の上に成り立つものである。高齢者がやる気を出すには、自分が大切にされていると言う思いが重要で、昼食を利用者と共にした際に、利用者それぞれの笑顔にそれを感じさせられた気がする。笑顔は人格を尊重されていると安心感から生まれてくるのだと確信した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の様々な場面において、思いや要望を引き出せるような声掛けを心掛けている。言葉ではうまく表現できない方においては、表情や反応を注意深く観察しご本人の意向に沿った生活が送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームはご利用者の生活の場であることを忘れず、「ご利用者本位」のケアやペースを優先するよう心掛け、体調や意向を考慮しながら望みが叶えられるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容時は鏡を見ながらご自分で出来るよう配慮し、髪型・爪切り・毛剃り・衣服の乱れには気をつけさりげなく直すよう心掛けている。訪問理容師には、好みの髪型が維持できるよう協力を仰いでいる。また、行きつけの美容室を利用したり、化粧の仕上がりを確認して差し上げたり好むスタイルを継続できるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理・盛り付け・片付けなど食事に関する一連の流れをご利用者の能力に応じて一緒におこなっている。月1回の給食会議では、ご利用者の視点に立ち意見や要望を伝え思いが反映されるよう努めている。また、誕生会や特別な日にはご利用者が好むものを提供し食に対する楽しみが増えるよう配慮している。 (外部評価) ケアハウス内にある事業所であるが、食事は事業所独自で作っている。下ごしらえが可能な利用者は積極的に調理に参加している。「〇〇さんが切ってくれたから、煮物がおいしい」との会話も食事を楽しいものになっている。管理者は、いつもの職員いつもの利用者で、もしかしたら食事がルーチン化していないかと、運営推進会議で意見を聞ける仕組みを考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の献立のもと、栄養等は充実していると思っているが、食事量や水分量の少ない方には一律の支援ではなく、好む形態や飲み物の工夫・タイミングや回数を図りながら支援している。体重の増減には注意をはらい管理栄養士・訪問看護師・主治医に相談し助言をいただいている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科衛生士の指導のもと口腔ケアの必要性を理解し支援している。個々の口腔に合ったブラシ等を使用しご本人の力に応じたケアをおこなっている。また、口腔内の異常は、早期の受診にて大事に至らないよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握。失敗の無いよう気をつけている。下着の上げ下げがスムーズにおこなえるよう尿取りの大きさや装着方法を利用者やご家族と話し合いながら自立に向けた取り組みをおこなっている。また、普段はオムツを使用している方でも、2日に1回はトイレに誘導し自然排便を促すよう支援している。</p> <p>(外部評価) 昼間はトイレで排泄するように支援をしているが、夜間は利用者によっては睡眠を優先するために紙おむつやパットも活用している。利用者の生活の質を見極めた支援である。施設は20年近く前に建設されたため事業所内にトイレが1か所しかなく、トイレから一番離れている部屋は少し距離がある。しかしさほど大きな問題は起きておらず、職員の見守りが徹底されている証拠である。ハード面の不利をソフト面で補っていると言える。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食事内容は野菜の多い献立となっており、水分摂取もこまめにおこなっている。牛乳・バナナは毎日摂っていただき、適度な体操と腹部の張り具合を確認し訪問看護師の助言をいただきながら便秘予防に努めている。必要に応じては、主治医の指示のもと下剤の調整をおこなうこともある。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 週3回の入浴と立位不安定の方においては2人介助を基本としている。入浴を拒む方においては、無理強いをすることはせず時間や職員を代えて対応している。また、湯船に浸かる時間・順番・湯温にもできる範囲で利用者の好みに添った支援をしている。</p> <p>(外部評価) 浴室は、階段を二段上がる、高齢者介護には不利な構造であるが、2名介助等で少しでも快適な入浴になるように工夫をしている。ケアハウスの浴室を使う方法もあるが、距離があるため移動手段や湯がめの問題等があり、できるだけ事業所の浴室を使うようにしている。浴室は共同空間と離れた場所にあり、利用者は自分だけの時間を楽しんでいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) お一人おひとりの生活ペースに応じて休息の時間を設けたり、心地よく眠れるよう日中の活動に配慮している。夜間、寝付かれない方においては、その原因について振り返り生活リズムを整えられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内薬一覧表にて服薬状況を把握している。薬箱には、名前を大きく記載し個数も記し、誤薬防止に努めている。服薬変更後においても、症状が改善しない場合はデーターをとり再度医師に相談している。お薬を手渡す時は説明をおこない服用の確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お一人お一人の得意・不得意を踏まえて、(食事準備・片付け・掃除・ゴミ出し・食材取りなど)気分変換を図るとともに出番のある事の生きがいを感じていただける支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の役割を兼ねての外出は日常的に行っており、敷地内にある六地藏参りも楽しみの一つとなっている。個別支援としては、美容室に行ったり、生活必要品の買い出しに出かけたり、帰宅願望のある方にはご家族の協力にて外出・外泊支援もおこなっている。 (外部評価) 施設の車両を使って遠出をする外出は年間行事で実施している。しかし、回数が限られているので、時間を見ては敷地内の広場を散歩するよう支援をしている。外気浴でのリフレッシュが目的であり、季節を感じることで見当識障害の軽減も兼ねている。ケアハウス併設の事業所の利点は、雨の日も広い施設内を歩けることであり、1階のロビーは観光ホテルのように広く、窓からは市内が一望できる。ケアハウスの利用者と雑談もでき、お出かけ気分が楽しめる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本は事業所での管理ではあるが、買い物時は個人の財布よりご自分で支払いが出来るよう、説明と見守り支援を行っている。ご自分で管理している方においては、定期的に残金の確認をご本人と一緒にこなしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字の書ける方には、暑中見舞いや年賀状に一筆添えていただき、季節のご挨拶を忘れないようにしている。必要に応じて、電話の取次ぎもおこない携帯電話を所持している方には、夜間充電の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共に生活する中で、空調や臭い・音や光などは調整をおこない不快を与えないよう配慮している。キッチンの窓からは四季の移り変わりや来客の様子を眺めることができる。また、施設玄関の1階には入り口に椅子等を用意し、ゆっくりとくつろげる交流の場となっている。</p> <p>(外部評価) 施設の建物がゆったりと造られているので、事業所のスペースにもゆとりがある。廊下から入ると広いリビングは多目的に使われているが、柱の裏や廊下の一角等は、一人になれる空間ともなっている。空間が繋がっているため目が届きやすいし、何よりどこに居ても人の気配が感じられ、安心できる。職員達が持ち寄った家具が共用空間のあちらこちらに配されており、馴染みやすい工夫が感じられる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 皆さんで過ごせるフロア。一人になれる自室。気の合う者同志が集える場所に椅子を配置するなど、精神的なバランスを保てるよう配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご自宅で使用していた物を持ち込む利用者は少ないが、ホームで生活していく上で必要となるものは、ご本人やご家族と相談してご用意していただいている。また、大好きな歌手のグッズをお作りし、折に触れ楽しめるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室は利用者によって家具等の持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所と言う居心地の良さが感じられる。介護業務を考えてベッドや洋服キャビネットが用意されているので、着替えと布団だけでも暮らすことができる。廊下に利用者それぞれの収納庫があり、季節物を片付けている。各部屋がすっきり見えたのは、収納庫の存在があった。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各部屋の入り口やトイレの表札は目線の位置に掲示し解り易くしている。夜間の証明の明るさにも気をつけ混乱や失敗のないよう配慮している。また、お一人おひとりの身体機能に合わせベットの配置を考え、出来るだけご自分で安全に動けるよう工夫している。</p>	